

2021年度 大学入学共通テスト 数学ⅡB(本試験) 分析

試験時間 60分

難易度	出題分量	出題傾向
例年並み。 誘導が細かいが、その意図にうまくのれるかどうかで差がついた。	やや増加。 I A ほどではないが文章量は増加。また選択形式の問題が増加した。	選択形式の問題が大幅に増加した。また、正解を選ぶまで手間取りやすいものが多かった。
<p>総評</p> <p>問題の難易度的には前年のセンター試験より大きな差はない。しかし、文章量および選択問題の増加で、試験時間の 60 分は短く感じる。後半は文字数が多く、的確に処理できるかどうかのポイントであった。計算量は減少したものの文章量等の増加により、戸惑った受験生も一定数存在したであろう。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	[1]三角関数 [2]指数関数・対数関数	30点	[1]cos の合成に関する問題。合成とは？をきちんと理解していないときびしい。 [2]比較的解きやすかったのではないと思われる。問題の誘導にのり、きちんと確認さえ取れば得点しやすかった。
第2問	微分積分	30点	y 軸との交点における接線及び面積についての内容。例年に比べ計算量は非常に少なく、早く解き終わった受験生も多かったであろう。
第3問 [選択]	確率分布と統計的な推測	20点	読書時間に関する調査の問題であった。前半は標準的で計算も難しくはないが、統計や信頼区間についての理解が求められる内容。
第4問 [選択]	数列	20点	誘導が丁寧で、きちんと従っていけば得点しやすかったように思うが、文字の種類が多いことや設定が少し細かいため混乱した受験生もいたであろう。
第5問 [選択]	ベクトル	20点	正十二面体が題材であったが、正五角形に関する知識と誘導にのること得点できる問題。ただし、文字の設定が細かく見間違いが起こりやすく、確認のために時間をとられる設定であった。

高2生へのワンポイントアドバイス

旧センター試験と比較して全体的に量が多いこと、そして文章量も多いことから付け焼刃の学習では対応できない出題となっています。普段から基本問題を中心に定理公式類の確認およびそれらの証明までしっかりマスターしておくことが重要です。また、答えを求めるためのテクニックなども押さえておくと効果的です。基礎学習やテクニックのマスターなどがある程度仕上がったら、文章量になれるためにも教科書や予想問題などを通してしっかり練習を積んで得点力を向上させましょう。

進路企画